

# 明治以降の商業地の近代化とその捉え方

## —日本橋と銀座の比較—

The process and recognition of the modernization in commercial districts after Meiji Period  
—A comparison between Nihonbashi and Ginza—

外戸口眞子  
KETOGUCHI Makiko

### 1. 序章

#### (1) 背景と目的

日本橋は江戸時代より、五街道の起点や舟運、魚河岸、商業地として栄え、江戸の賑わいの中心地であった。一方銀座は、明治維新以降の新政府によって、新しい街を目指して銀座煉瓦街計画など計画的に整備された。その結果、銀座は日本橋に代わって明治期にはすでに賑わいの中心になった<sup>i</sup>とされている。日本橋と銀座はそれぞれ商業の集積地であり、その盛衰には実際の街の変化とともにその捉え方も大きく関わっていると考えられる。明治以降の欧米に倣った近代的な都市が形成されていく（近代化）<sup>ii</sup>なかで、具体的な街の変化とその捉え方に関して複数の街を比較してみたものはない。また後世、銀座の来訪者は丸ビル当たりも散策していたとされており、その周辺地域との繋がりも賑わいと関係していると考えられる。

本研究は、都市空間の近代化が図られていく中で、日本橋と銀座の変化と、その捉えられ方を明らかにし、日本橋から銀座に賑わいの中心が移行したこととの関係を考察することを目的とする。

#### (2) 対象

本研究では、日本橋の範囲を橋梁の「日本橋」を南北に挟んだ、現在の中央区室町・中央区日本橋、銀座を現在の中央区銀座とした。周辺を日本橋および銀座と隣接する日比谷・丸の内・京橋・兜町とし、対象とした。明治時代から帝都復興事業完了までが、積極的に都市の近代化が図られ、現代に続く基盤が形成された時期<sup>iii</sup>という既往研究の指摘に基づいて、明治（1868年）から復興庁の解散（1930年）までを対象時期とし、関東大震災（1923年）で区分した。

#### (3) 研究方法

第2章では、明治維新以降の日本橋・銀座・その周辺において実際に行われた近代化による主な変化を、文献調査から把握・整理した。第3章では、これらの近代化がどのように捉えられたかを、東京を題材として、「見る」対象として名所的に捉えたと思

われる絵画・写真と、商業活動と関係する捉え方に近いグラフ誌（発行時期から、震災前は風俗画報、震災後はアサヒグラフ）から把握・整理した。第四章では、実際の近代化と捉えられた近代化の関係を整理し、日本橋から銀座へと賑わいの中心が移行したこととの関係を考察する。

### 2. 日本橋と銀座における近代化

対象が商業地であることから、商業活動に関係する「商業施設（新規・建替）」、地域の性格と関係する「その他建造物」、地域間の連結や人の流れと関係する「動線（街路・車道、公共交通機関）」、明治以降の新たな都市施設としての「オープンスペース（都市公園）」から把握・整理した。

#### (1) 日本橋

震災前、高島屋や丸善本店（新規）、三越や白木屋（建替）などの商業施設と、日本銀行が建設された。また、本通線（銀座と連結）および千代田橋線（丸の内と連結）などの市電が整備された。

震災後は新たな商業施設ではなく、三越や白木屋といった商業施設が建替えられ、その他三井本館や野村證券本店が建設された。また、復興事業の一環として昭和通りが整備された。

日本橋では震災前、道路に変化はなく、単独で新規もしくは建替えの商業施設が出現した。震災後、新規の商業施設ではなく、復興事業により整備された昭和通りの整備によって、兜町と分断された。

#### (2) 銀座

震災前、資生堂や服部時計店といった専門店や歌舞伎座のような娯楽施設（新規）と、歌舞伎座や資生堂パーラーなどの商業施設（建替）、銀座煉瓦街が建設された。また、本通線（日本橋と連結）及び築地線（日比谷と連結）などの市電が整備された。

震災後、松坂屋や三越などの百貨店や第一銀座会館やクラブなどの娯楽施設（新規）と、御木本真珠店、KK 和光、歌舞伎座などの商業施設（建替）及び泰明小学校が建設された。道路に変化はなかった。

銀座では震災前、銀座煉瓦街によって道路が整備され、資生堂など専門店が多く新規に出現した。震災後、道路に変化はなく、百貨店（三越、松屋）や娯楽施設（ダンス場、クラブなど）が新規出現し、明治以降に建て替えられたり新築されたりした歌舞伎座や資生堂などが建替えられるなど、商業施設が比較的短い周期で建て替えられていた。

### （3）周辺

震災前、新富座（京橋）や帝国ホテル（日比谷）といった商業施設と、第一国立銀行（兜町）や三菱一号館・東京駅（丸の内）が新築された。坂本町公園（兜町）、日比谷公園（日比谷）といった都市公園が出現し、築地線（日比谷・銀座）および千代田橋線（丸の内・日本橋）などの市電が整備された。

震災後、丸の内ビルディング（丸の内）や東京宝塚劇場（日比谷）といった商業施設が新築され、帝国劇場（日比谷）が建替えられた。坂本小学校（兜町）や日比谷公会堂（日比谷）といった文教施設や、東京中央郵便局（丸の内）が建設された。行幸道路が整備され、東京駅と皇居が丸の内を経て結ばれた。

周辺においては、震災前後を通して、購買を目的としない小売以外の商業施設が新築された。丸の内はオフィス街、京橋は娯楽施設、日比谷は娯楽施設および文教施設が整備された。

## 3. 日本橋と銀座において注目された近代化

### （1）絵画作品

絵画・写真は、タイトルから政府機関・街並・企業・橋・新規商業施設・建替商業施設・皇室関係・宗教施設・都市公園・鉄道に分類し、1作品につき1つの描かれた対象を抽出した。

震災前、描かれた作品枚数は、日本橋 29 枚、銀座 54 枚だったのに対し、震災後は日本橋 14 枚、銀座 47 枚であり、震災前後ともに日本橋よりも銀座が多く描かれていた。

#### （i）日本橋（図 1）

日本橋では震災前、新しく架けられたものも江戸期からあったものともに橋が最も多く描かれていた（図 2）。日本銀行などその他政府や呉服店から百貨店になった三越などの建替商業施設や、建替が行われなかつた街並が描かれており、江戸時代から続く日本橋のイメージの中に、近代的な施設が点在して捉えられていたといえる。

震災後も依然として橋が多く描かれていたが、建替商業施設も橋と同程度描かれていた（図 2）。橋や

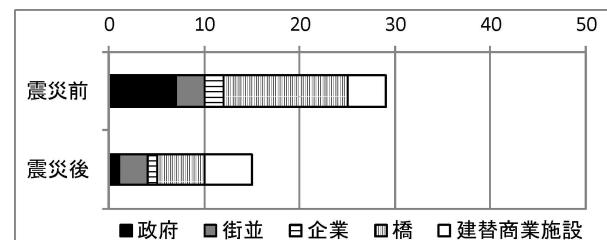


図 1 震災前後に絵画に描かれた対象（日本橋）



図 2 震災前に描かれた日本橋の橋  
(小川一眞《日本橋》「東京風景」)

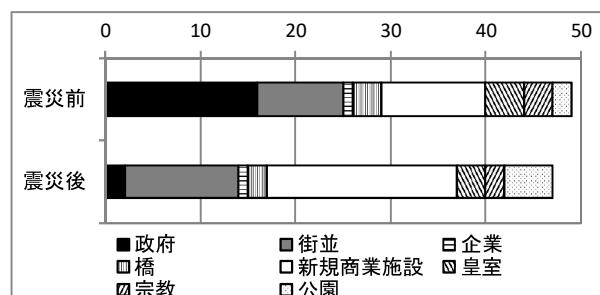


図 3 震災前後に絵画に描かれた対象（銀座）

建替商業施設を中心として、江戸時代から続く日本橋のイメージと近代的施設の融合として捉えられていたといえる。

また、震災前後で丸善や高島屋といった新規商業施設は描かれておらず、前述のように、日本橋では江戸時代から続くイメージの強いことがうかがえる。

#### （ii）銀座（図 3）

銀座では震災前、官庁などの政府や歌舞伎座といった新規商業施設、街並以外にも、その他多くの施設が描かれており、新しい建造物を中心とした街全体を捉えていたといえる。

震災後も、依然としてダンス場やカフェなどの新規商業施設や街並と、その他の多くの施設が描かれていた。また、新しく出現した娯楽施設も多く描かれていることから、新たな娯楽施設もある近代的な

街並として捉えられていたといえる。

### (iii) 周辺 (図5)

周辺では震災前、皇室を中心として政府や街並が多く描かれており、商業施設はあまり描かれておらず、皇室や政府機関などの日本における政治の中心地として捉えられていたことが確認できる。

震災後は、依然として皇室や政府関係施設が多いものの、街並を描いた割合が増加していた。震災後も、皇室や政治などの政治の要所がある近代的な街並みとして捉えられていたといえる。一方、商業施設は描かれておらず、商業地としては捉えられていなかったといえる。



図4 震災後に描かれた銀座の街並  
(小川一真《銀座街道》「東京風景」)

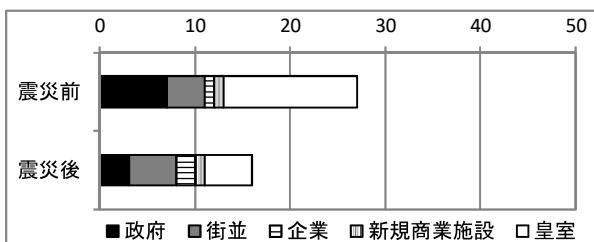


図5 震災前後で絵画に描かれた対象（周辺）

## (2) 雑誌

『風俗画報』は絵画作品同様に1つの記事から1つの対象を抽出した。『アサヒグラフ』は、1つの記事に複数の近代化の対象が含まれるため、1つの記事から複数の対象を抽出した。両者における記事の取り上げ方の大きな違いとして、アサヒグラフは、より人の活動に沿った構成となっていた。

震災前の記事件数は、日本橋51件、銀座25件、周辺2件であったのに対し、震災後は日本橋44件、銀座80件、周辺107件であり、単純な比較はできないものの銀座および周辺の件数が相対的に増えている。

### (i) 日本橋 (図6)

日本橋では震災前、三井呉服店や魚市場などの建替商業施設、三井物産や三井銀行などの企業、橋が

ほぼ同じ割合で取り上げられていた。これらを中心に、街並や日本銀行などの政府関係の施設などが多かった。

震災後、日本橋を扱う記事の件数は減少しており、街並、三越や白木屋などの建替商業施設、オフィスビルなどのその他建造物の順に記事が多かった。震災後に再度建て替えられた百貨店などが多く取り上げられており、震災前後ともに新規商業施設は取り上げられていなかった。また、震災後は橋も取り上げられなくなっていた。

### (ii) 銀座 (図7)

銀座では震災前、読売新聞や報知新聞などの新聞社を中心とした企業が多く取り上げられており、商業施設は数件であった。

震災後、専門店や百貨店などの新規商業施設や街並が多く取り上げられていた。購買を目的とした資生堂などの専門店が取り上げられると同時に、ダンス場などの娯楽施設も取り上げられ（図8）、銀座が

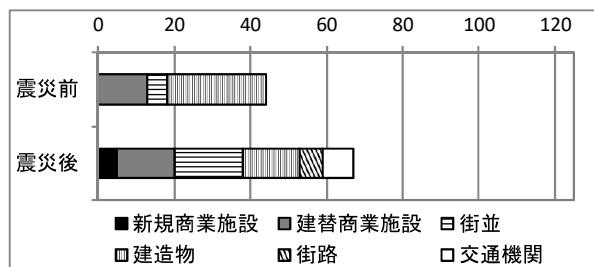


図6 震災前後で雑誌に取り上げられた対象（日本橋）

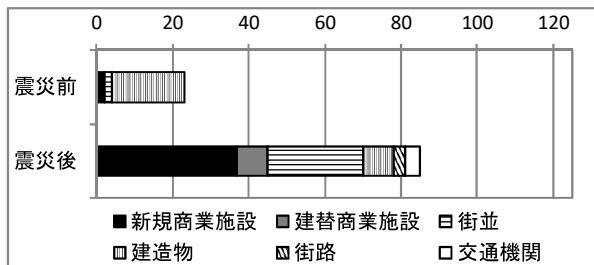


図7 震災前後で雑誌に取り上げられた対象（銀座）



図8 震災後の銀座の娯楽施設（「ダンス場」『アサヒグラフ』）

購買活動と娯楽活動の場として捉えられていたことが確認できた。

### (iii) 周辺 (図9)

震災前、東京駅が2件のみ取り上げられていた。震災後、その他建造物、街並、新規商業施設の順に多かった。その他建造物は地域ごとに異なり、丸の内では東京駅や三菱一号館から始まるオフィス街(図10)、日比谷では日比谷公会堂や日比谷図書館などの文教施設が取り上げられていた。

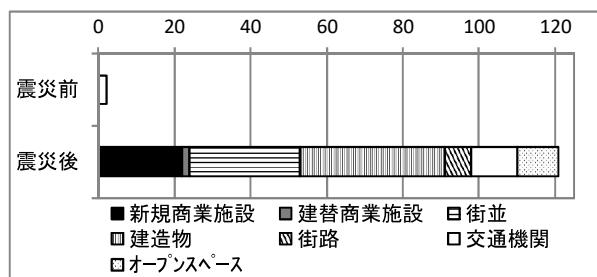


図9 震災前後で雑誌に取り上げられた対象（周辺）



図10 震災後の丸の内界隈  
（「復興の丸の内—東京駅から見た丸ビル」『アサヒグラフ』）

## 4. まとめ（表1）

震災前後で、絵画においては銀座の方が日本橋よりも多く描かれていた。一方、人々の活動に關係するグラフ誌の記事では、震災前は日本橋の方が多く取り上げられていたが、震災後は少なくなつており、明治以降銀座は名所的に継続して捉えられてきた。一方、グラフ誌での震災前後における日本橋に関する記事件数は減少しており、活動の場所としての捉え方が、震災を契機に日本橋から銀座に移行していくことがうかがえる。

日本橋では、新規商業施設やその他建造物にも近代化は見られたが、グラフ誌で取り上げられたのは、主に江戸から続く建替商業施設であった。日本橋は震災前皇室や政治の中心と捉えられていた丸の内の市電による結びつき、東京駅の開業および行幸道

表1 震災前後での主な近代化と捉えられた近代化

	日本橋	銀座	周辺
震災前	◎建替商業施設 ◎その他建造物 新規商業施設 公共交通機関	◎その他建造物 ●新規商業施設 ●街並 公共交通機関	●政府機関 ●皇室 ●街並 ○公共交通機関 その他建造物 オープンスペース
震災後	◎建替商業施設 ◎その他建造物 道路 公共交通機関	◎新規商業施設 ◎街並 ○建替商業施設 その他建造物	○街並 ○新規商業施設 ○建造物 道路

◎絵画・グラフ誌に掲載 ●絵画に掲載 ○グラフ誌に掲載

路の開通による東京駅と皇居の結びつき、震災復興において開通した昭和通りによって兜町と分断されたことから、周辺との結びつきが薄れ、独立して江戸時代からのイメージを持ち続けたと考えられる。

銀座では、震災前においては専門店などの新規商業施設が多く建てられたが、劇場などの娯楽施設が多く捉えられていた。震災後には日本橋から百貨店などの新規商業施設が開業し多く捉えられるようになった。さらに、娯楽施設や文教施設が多く捉えられた日比谷と市電により結ばれるなどして、新しい中心地として捉えられるようになったと考えられる。

震災前、新たな空間は名所的に捉えられたが、日本橋・銀座ともに提供できた商業活動の中心は購買活動であり、グラフ誌では日本橋が多く取り上げられたと考えられる。震災になると、銀座において購買活動だけではない娯楽活動が銀座で提供されるようになると、それに伴って新たな空間も創出され、名所としても活動の場としても銀座が多く取り上げられるようになった。逆に、日本橋は交通機関で周辺と結ばれることなく、依然として江戸から続く購買活動中心の商業地として独立して捉えられ続けたといえる。

こうして、関東大震災を契機に、商業地として賑わいの中心地が日本橋から銀座へ移行したと考えられる。

1) 藤森照信、明治の東京計画、pp.41-52、岩波書店、1982年  
服部鉢二郎、銀座の象徴性：商業近代化に果たした銀座の役割、立正大学人文科学研究所年報 11、pp.38-55、1973年

2) 角真規子・斎藤潮、東京都心の近代街路における歩行者空間のレイアウトについて、2002年度第37回日本都市計画学会学術研究論文集、pp.1051-1056、2002年

3) 石田頼房、日本近代都市計画の百年、自治体研究社、1987年